

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



巻頭言

MESSAGE from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

言葉だけの希望より 私たちの体験届けたい



10年前の3月11日午後2時46分、私は増加する入寮者のために施設に充てる物件探して、隣接する行方市の北浦湖岸近くを車で走っていました。いきなり道路が波打ち、電柱が左右に大きく揺れて目眩(めまい)かと錯覚しました。急いで車外に出たものの、体験したことのない激しい揺れでとても立ってはいられません。すぐに施設に電話を入れると、仲間からは「被害状況は分からない」との返事。「急いで戻る」と告げると、その後は通話不能となりました。さっき渡ったばかりの鹿行大橋を戻ろうとしましたが、なんと北浦に架かるこの橋は崩落し、無残な姿をさらけ出していました。後に判明したのですが、運悪く通行中の車両が巻き込まれ、運転していた男性が死亡したのです。遠回りでしたが、仕方がないので湖岸を迂回する対岸道路を急ぎました。途中、道路はあちこち陥没しており、やっとの思いで施設に戻れました。

東日本大震災では、鹿島灘に面する鹿嶋市は海岸部が津波被害を受け、鹿島神宮の大鳥居が倒壊するなど、あちこちで大きな被害が出ていました。潮騒JTCの施設はやや高台にあったために津波被害を免れ、仲間にはけが人もいませんでした。しかし、壁にはあちこち亀裂が入り、水回りの破損が激しく、後にこれらの修理費がかさんで苦勞しました。半面、未曾有の大災害で入寮者の結束が強まり、私は「困っている時こそ、私たちの出番だ!」と仲間たちに奮起を促しました。普段は役立たずと思われている私たちですが、非常時こそ出番です。施設の大浴場を地域の被災住民に開放し、市の給水ボランティアに協力するなど、潮騒のマnpaワ-を生かして

地元の復興支援に協力しました。災難にめげずに頑張ったせいも、震災後も潮騒JTCへの入寮希望は増え続けています。まさに「禍を転じて福と為す」かもしれません。

ところで、2月13日の夜11時過ぎに福島県沖を震源とする大地震(最大震度6強)には驚かされました。あの時から10年目とあって、読者の皆さんも改めて震災の記憶が蘇ったのではないのでしょうか。しかも3・11は、かつてない原発大事故も誘発したため、未曾有の人類史的大災害となりました。今も地元はその後遺症と後始末に苦しんでいます。東電福島第1原発のある福島県双葉町や大熊町の国道6号線を走れば、ゴースタウンと化した荒涼とした風景をあちこちで目にできます。廃炉作業や除染作業の遅れもあって、着の身着のまま故郷を追われ、今もって帰還困難区域として帰ることが許されない人々を思うと、言葉だけの希望がなんと空しいことか。その意味で、被災地における孤立・孤独化とアルコール依存症の増加は無視できない深刻な社会問題です。

潮騒通信では早くからこの問題を指摘してきましたが、家族や財産を失い、何もかもなくした被災者には、言葉だけの希望なんて意味をなしません。とりあえず心に広がる空洞をアルコールで埋めようとする衝動を、誰が責められるでしょう。必要なのは同じ苦しみを共有できる仲間の存在です。非力ながらも潮騒JTCには依存症の回復では15年の蓄積があります。どうにかして私たちの体験と回復のノウハウを、被災地にも届けたいものです。

(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍における施設運営の 課題と展望

「サポーター制度」導入で

職員登用の 道を 推進

第3回

「コロナなんて風邪と同じだろ。なんで俺達そんなにビクビクしなくちゃいけないんだ」。施設内には依然として新型コロナウイルス感染をみくびる声があります。しかし、施設側からすると一人でも感染者が出れば、施設の性格からクラスター(感染者集団)につながりかねません。最悪には施設自体が一時閉鎖の危機さえもあり得ます。潮騒 JTC には矯正施設や病院を往復してきた入寮者が多く、公衆衛生に対する理解が低いのが現状です。世間の健康的な生活とは縁遠く、その日暮らしが身についているだけに、感染防止対策の励行を促しながら依存症の回復を目指して、新たに生きるビジョンを獲得しなければなりません。

その指標となるのが、施設が提供する回復のプログラムです。コロナ禍で思うに任せない状況ながらも、日々の地道な実践が希望への手がかりとなります。栗原センター長をはじめとする回復者をモデルに、どうしたら新たな回復者を生み出せるか? 開設以来、潮騒の悩ましい課題です。

潮騒 JTC では依存症問題の「出口」に早くから着手し、農業を主体とした就労支援に力を入れてきたのは周知の通りです。自前で大規模農場を整備し、コメや

多品種の野菜を生産し、人気の干し芋や焼き芋、ワラ納豆用の藁苞(わらずと)など加工品も手掛けています。農産物は直営の潮騒食堂に提供し、入寮者の食事に充てることで自給自足型の施設運営を実現しています。

よくある貧困ビジネスの宿泊所とは違い、比較的恵まれた施設環境下で一定の回復を見た仲間たちも、社会の厳しい雇用環境の下では一般就労は難しいのが実情です。半面、施設内での緩やかな環境なら人間関係のストレスも少なく、無理せずに回復人生を歩めます。大規模化した潮騒グループでは多様な人材(回復者)の活躍が求められるだけに、「当事者スタッフから職員へのステップアップを」として、自前の就労ルートの定着化に力を入れています。

ここで障壁となるのが、依存症者特有の自尊感情の低さや責任回避の傾向、自分を深く内省できない弱さです。「施設にいいように利用されるだけ」「余計な負担を背負いたくない」という忌避の態度が生まれやすい背景には、従来のスタッフ制度が誤解されやすい面がありました。病院など外部の人たちからは付添のスタッフが施設職員と見做されて、身の丈を超える要求や責任を負わされてしまう場面が数多く見られます。

施設内でいくら「スタッフはフラットな人間関係が基本」と力説されても、世間から求められる要求は高く、そのギャップからスタッフが潰れる傾向がありました。それが施設への反発や不満が強くなる要因でもあり、これにコロナ禍が拍車を掛けています。そこから現場で悪戦苦闘するスタッフ仲間から、自主的に改革を求める動きが生まれました。

それが階層型の職制システムともいえる「サポーター制度」の導入です。誤解を招きやすい「スタッフ」の呼称ではなく、文字通り施設を下支えする「サポーター」として、自助活動のダイナミズムを失わずに与えられたポジションで果たす役割や任務を明確化しました。結果、それぞれの持ち場でサポーターらが必要な指導力や柔軟な対応力などを身に付け、職員登用への流れをスムーズにしています。

単に仲間の回復をサポート(応援)するだけでなく、当事者スタッフが自らも成長して施設を支えていくという、新たな方向性を感じさせます。栗原センター長は「あくまで当事者活動の基本を踏み外さずに、現場の困難から生まれた自主的な動きだけに注目している」と期待を寄せます。どうやら長期戦になりそうなコロナ禍との闘いに、潮騒 JTC は現場の知恵と創意工夫で乗り切ろうとしているようです。(終わり)

潮騒JTCの「学び」今春も花開く



今年度、県立鹿島灘高等学校を卒業したブーちゃん(左)とアサヒ(右)

コロナ禍で何もかもが自粛ムードに苦しむ世の中ですが、潮騒JTCでは「学び」の静かな動きが息づき、そして一つの流れとなって花開いています。

前年度に先鞭を付けた栗原センター長の高校卒業、そして大学進学へのチャレンジに続き、今年度も同じ県立鹿島灘高等学校(鹿嶋市志崎)の卒業生が生まれ、また上級学年に進級した仲間がいます。本人たちの努力はもちろんですが、彼らの学習を保障し、持続させた周囲の支えも無視できません。こうした「学び」の流れは何よりもアディクト(依存症者)にとって、新たな希望の光を与えるものです。

それは新しい生き方を支える大きな柱の一つであり、目には見えない情熱とエネルギーです。大袈裟ではなくて、人として社会で生きることへの自信とスキルにつながります。現実的には就労や雇用の可能性を大きく拡張するものです。とりわけ学歴に難を抱える

人たちが多い薬物依存の世界では光明となります。アディクトにとっての「学び」は世間でよく言う学歴コンプレックスという感情的な次元ではとらえきれない、大きな意味と価値を持つものなのです。

周知のように、仲間たちの多くは“学び”の機会から外れたことで差別や選別を体験しています。仕事内容や職業上の可能性から閉じられてきただけに、彼らは前向きに生きることに対する姿勢や自信を失ってきました。栗原センター長は「自業自得のこの社会では私たちが味わってきた悲哀は理解できにくいだろうが、自分たちの手で築いた“学び”の実現で克服できる。それを潮騒JTCでは回復プログラムとともに実証していきたい」と強調しています。

今後もこの流れを受け継いで、多くの仲間が地元高校での「学び」の機会を生かし、積極的に参加してほしいものです。

栗原センター長の言葉に 支えられ、卒業できた

ブーちゃん



3月1日、仲間の旭さん(前号で登場したアノニマス名、アサヒさん)と共に地元の茨城県立鹿島灘高等学校を卒業することができました。この学校は、午前部、午後部、夜間部とそれぞれ4時間単位に分かれており、3年での卒業を目指す生徒は1日6時間、4年間での卒業は1日4時間の授業(おおまかな説明ですが…)となっていて、群馬県と茨城県ではフレックススクール(生徒の多様性に合わせた昼夜開校の定時制単位制高等学校)と呼ばれる新タイプの普通科高校です。

私は入学1年前の2016年、先立って通学していた栗原センター長に高卒認定試験を受けたいと相談しました。「自分のアディクション(依存症)であるアルコール以外のことを考えられるよう、勉強をしてみたい…。そんな甘い考えでした。30数年前に都立の高校を“クビ”になり、その穴埋めを認定試験で手短かにすませたい。そう思っていた気がします。ところがセンター長は「自分の生き方を変えたいと思っているなら、学び舎に通う。このシンプルさに尽きるね」とおっしゃいました。今でもこの言葉は私の財産になっています。

2017年春、入学式を迎える頃の自分は、「世の中の役に立てる人間になりたい」と、そう考えていました。10代の若者と同じ教室での授業が受けられるのか? ついていけるのか? そんな余計な思いはいつしか手放せていました。求められる帽子のかぶり分け(生徒として、大人として、アディクトとして)も日常の中で、より意識できるようになりました。

2年生になった頃「アディクトと身寄りのない子供が、共同生活できる施設を立ち上げたい」という希望が芽生えました。と同時に、「社会福祉士の資格を取りたい。そのために通信制の大学で学びたい…。学校行事の文化祭やバドミントン大会等、楽しめた時間帯もそんな希望を胸に過ごしました。日中、プログラムの疲れを正当化し、欠席した事もたびたびありましたが、デイケアスタッフ仲間や担任の先生方の理解や協力もあったおかげで両立ができたと思います。

そしてこの度、4月から日本福祉大学通信教育部で学べる運びとなりました。これからも「潮騒愛」を胸にプログラムを継続していきたい所存です。

この国ではハンディを抱えていても、誰もが高校に通えるチャンスがある。頑張ってこの“学び”の機会を生かせば、社会でもそれなりの成果を得られ、自信にもつながる。学べば学ぶほど自分が豊かになり、高卒の資格も得られる。私たちは“今日一日”の生き方を実践しながら4年間高校に通うことで、より一層「自分が変わる」プログラムに近づける。



先行く仲間の背中を見て、 めでたく3年生に進級

一郎



「こんにちは」。正門をくぐると、授業が終わって帰宅する生徒たちから声をかけられます。53歳のハゲ親父に対して、現役の高校生が笑顔をくれるのです。何という瞬間でしょう！夕方から高校生になる私は「アディクションに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなった」ことをひとまず置いて、勉強に集中させていただくのです。

はじめまして。薬物依存症の一郎です。仕事、家庭、友達、両親よりも覚醒剤を優先していた私です。20歳から始めた覚醒剤は1度でも使用すると多幸感を覚え、脳が次々と薬物を欲しがります。1年、2年は週末だけで済ませることができましたが、収入が大きくなると3日に一度と“渴き”が来ます。気がつけば覚醒剤が止まらなくなっていました。自分でコントロールできると思っていたのが、完全に覚醒剤の虜(とりこ)になり、同時に嘘をつくことも止まらなくなりました。

人並みに家庭を持ったものの、娘二人や妻に取り返しのつかない経済的な“DV被害”を与え、心に癒やせない大きな“傷害”を負わせました。10年以上にもわたって、です。いつしか家族が目の前から消えていました。仕事を失い、友達からの連絡も途絶え、残ったのは根拠のない「恨み」だけ、誰も寄り添ってくれない、だから暴れる、飲む、(薬を)打つ、そして刑務所に…。37歳から連続4度の収監。その4度目の時、転機が訪れたのでした。

1 通の手紙が届き、封を開ければ達筆な文字に丁寧な言葉で「依存性は病気なのですよ」の肯定的な

文章。「一緒に回復していきましょう」という未知の仲間からのメッセージでした。腐りきっていた私に受け入れてくれる人がいるのか？半信半疑でしたが、それは潮騒JTCも同じでした。いつしかステップという回復のプログラムに我が身を委ねてみようと考えようになり、3年前の春に見知らぬ鹿嶋の地に來たのです。

その後は個性的な仲間たちが私を受け入れてくれ、肩の力を抜いたミーティングの生活が過ぎていく日々でした。そうした中で、栗原センター長をはじめ5人の仲間が夜間高等学校へ通学し、さらに上を目指して大学に進学。「何て素晴らしい時間を得ているんだろう」。人生を諦めかけていた私に、先行く仲間の明るく眩しい存在。何よりも目標を持って生きていることに驚きました。

「人は変わる」「努力し感謝を忘れずに」。そうした先行く仲間の言動をまずは真似てみました。言葉遣いや丁度良い距離感、ステップ1の「無力を認める」という案配の難しさと心地よさ。やがて自分の中に変化が生まれました。そして翌年、学力検査(入学試験)を受けられる機会を頂き、鹿島灘高等学校の夜間部に入学することになりました。恥ずかしながら、これで4回目の高校生活です。

もしかして途中編入できるかなと思いきや一年生からのやり直し。それでも輝く毎日を取り戻すために経験と感動を積み重ね、「新しい私に変わりたい。何事も受け入れ、執着しない心を養いたい」と思いました。今春、私は3年生に進級します。感謝！

実社会で高校中退の 悲哀を味わい、 リベンジに燃える

ヒロ



潮騒ジョブトレーニングセンター農業隊の色川です。アノニマス名はヒロです。僕が県立鹿島灘高等学校に通うようになったきっかけは、インフルエンザで寝込んでいた昨年の冬のこと。栗原センター長からの「来年度から高校に行かないか？」という突然の電話でした。熱で頭が朦朧（もうろう）とするなか、とりあえず「インフルが治るまで返事は待ってください」と伝え、その場をやり過ごしました。その後体調が回復したので、冷静になった頭で自分なりにセンター長の提案についてじっくり考えてみました。

実は僕は中学を卒業後、地元の定時制高校に通っていたのです。その時は夜遊びに夢中で出席日数が足りずに留年し、さらに翌年も遊びほうけてしまい、結局は退学となりました。当時は「学歴なんて大した問題ではない。要は実力勝負だ」などと安易に考えていました。しかし、いざ実社会に出てみると、この後の人生において私の「中卒」や「高校中退」の肩書は大きな足枷（あしかせ）となっていたのです。

そのハンディに初めに気が付いたのは、ある工場で働いていた時です。僕よりも何年か後に来た他の社員が、なんと自分よりも給料を多くもらっていることにショックを受けました。たった2歳の年齢差と、学歴の違いでしかないのに…。その後、縁あってIT企業に就職できましたが、顧客先に常駐する際には決まって「どこの大学出身なの？」などと聞かれ、次第に嫌気がさしました。ここも病気で辞めることになりましたが、今度は転職しようにも、そもそも高卒じゃないと応募もできない状態でした。「それなら何

か資格を取ろう」と考えても、やはり「高卒が条件」の壁にぶつかるのでした。

こうやって僕の人生は50年が過ぎていました。ただ幸いにも人の縁に恵まれ、横道にそれずに何とか真っ直ぐに生きてこれましたが、昨冬に栗原センター長から高校入学の助言を受けた時に、「もしかして人生の転機を促すきっかけなのかな」「これまでの人生に対する“リベンジ”かもしれないな」と考えました。意を決して昨春入学、僕の高校生活が始まりましたが、いきなりのコロナ騒ぎです。出鼻をくじかれて学校は休校となり、課題が出されました。これまでほとんど勉強をしてこなかった僕には、分からないことだらけでした。「こんなことで4年間もやっていけるのだろうか…。」不安に思いながらも、何とか提出することができました。

6月に入り登校しての授業が開始、潮騒JTCからの仲間1人と、現役の高校生1人の計3人のクラスでした。他の2人に教えてもらいながら何とか勉強し、特に書道ではこれまで真面目にやったことがなかったので、「心を落ち着けて筆を動かすことが、こんなにも楽しいことなんだ!」と気付かされました。

それだけに「どうして現役の時にもう少し真面目に勉強を頑張ってたのかな…」と毎日、思っています。4月からは2年生に進級しますが、クラスは1人抜け、もう1人も抜けと、僕だけになってしまいました。それでもこれまでの50年間へのリベンジを果たすために、残り3年間頑張っていきたいと思っています。



vol.10

自分と向き合い
スタッフを任される

「るみの家」めいの回復(途上)物語
こんな私でも
変われると信じて…

少しずつ自分の抱える問題に 目が向くように

3年間の執行猶予期間が終わったというのに、私は心のスリップ状態から抜け切れずにいました。「私には愛というものは分からない」などと両親に不満をぶついたりして…。結局のところ、私は「るみの家」に来た理由や意味をどこかで間違い、勘違いをしていたのです。ルミさんの顔をうかがい、ルミさんの近くにいることが、まるで自分のステータスのように感じていたのです。

だからルミさんに厳しく言われたことで、完全に心が折れてしまいました。自分の目標を見失い、完全に心がブレてしまいました。母も、私の話だけを聞いて少しブレました。当然ながら、その後ルミさんに親子で叱られてしまい、母も私も我に返る事が出来ました。そこから私はルミさんを気にしなくなりました(もちろんルミさんのことは好きですが…)。

そうして、少しずつ自分の抱える問題に目が向くようになっていったのです。やがて私がここに来たのは、ルミさんのためではなく自分のためだと気がきました。もし自分の夢が、有給スタッフならば、ルミさんがどうかではなく、今の自分に出来ること、やるべきことをやろうと気持ちを切り替えました。そこから、凄く遅いけれど本当のプログラムが始まったような気がします。

自分がいかに酷い生き方をしてきたのか、息子や両親がどれだけつらく、傷ついたかを忘れてはいけないのに、どこかでそれを忘れ、昔のようにまた逃げようとしてしまった自分でした。摂食障害の症状が奇跡的に止まり、クエプトマニア(窃盗症)が止まったことに、調子に乗っていました。私は強い決意をしました。それまで私がしてもらったことの恩返しをしていきたい、と。

そのために今後も潮騒にずっと繋がっていく。有給スタッフになって、繋がりながら回復をしていく。そのためにまず自分の病気をもう一度見つめ直しました。「あんたには愛が無い!」と言われ続け、「あんたは意地悪だ!」と言われ続け、「バカだ!」と言われ続けた私だけど、それでも一生懸命私なりに頑張りました。ルミさんに毎日怒られながら、頑張りました。

ルミさんから「今日から、 めいをスタッフ研修にする」と

そして、平成31年2月に2度目の1年クリーンを迎えることが出来ました。恥ずかしかったけれど、やっぱり嬉しかったです。さらに3月1日には奇跡が起きました。朝、ルミさんが食堂に降りてきて、「今日から、めいをスタッフ研修にする」と言ってくれたのです。一瞬何が起きたのか分かりませんでした。

スタッフ研修になれたことも、そりゃあ嬉しかったです。が、その後にルミさんが言った「めいを信じてみよう」と決

めたから…」の言葉には涙が出ました。その時ほど頑張っていて良かったと思ったことはありませんでした。

そこからまた私の新しいプログラムが始まりました。スタッフは平等でなければならない。それが私にはすごく難しい。だから与えてもらえたのかもしれませんが。スタッフ研修は覚えることが沢山ありました。1カ月程してから今度はスタッフになりました。私も驚きだったけれど、古くからいる仲間たちはもっと驚いたと思います。「あの、めいが!」って。

私はスタッフになって色んなことが見えてきました。今までいかに何もやっていなかったかを思い知りました。以前ルミさんに「あんたは料理しかしていないでしょ」と言われたことがあったのですが、その時は「そんなことない。あれもこれもやっているじゃないか」と反抗心があったのですが、実際スタッフになってみると、その意味がよく分かりました。

事務所と金庫の鍵を持たされる奇跡が！

私って今まで何もやっていなかった。自分のことはやっていたけれど、結局ところ間のためには何もしてなかった、と気づけました。口では「間のためには何かしたい」「恩返しをしたい」と言っているけど、実際にはしていませんでした。

そして奇跡はまた起きました。事務所の鍵と金庫の鍵を持たされたのです。クレプトマニアの元大泥棒で、処方薬乱用のこの私が、です。薬が沢山あり、大金が入っている事務所と金庫の鍵を…。そのことを退寮した仲間へ報告すると、「るみの家も終わった～。ルミさん苦渋の決断～」と返ってきました。私の過去を知っている仲間の当然の反応に笑ってしまいました。

自分が何処までやれるのか分からないけれど、やってみようと思いました。正直、鍵の重みというプレッシャーがのしかかっていて、病気になるかもしれないという不安もありました。でもルミさんに「その時はその時よ」と言われ、その通りだと思い、少し楽になりました。

ここに繋がったとき私は、いろいろと問題ばかり起こすので、私はどこにも連れて行ってもらえませんでした。図書館も本を盗むかもしれないし、そこに来ている人のお財布を盗むかもしれない…ということでダメ。もちろん買い物もダメ。とにかくダメダメで、唯一行けたのは近くの神之池（ごうのいけ）緑地公園だけでした。池の周りを歩く散歩プログラムでした。正直つまらないと思っていたけれど、そこにしか行けないから行っていました。

その私が、今は施設の用事などで一人で出かけることもあります。ルミさんは「信じられないけど信じる」と笑いながら、でも多分本気で言ってくれます。私も信じられないけれど、自分を信じて見ようと思っています。ただ、毎回「私は病気、気をつけなさいよ」と自分に言い聞かせています。まだまだ危なっかしい私、気を抜くとすぐに依存症という根深い病気が顔を出すからです。

学んだ正しい愛で 埋め合わせをしていきたい

私がここ「るみの家」に繋がってから4年。ここで学んだこと、気付いたことが沢山あります。恨みと怒りしかなかった私、「恨みは感謝に変わる」の言葉に、「そんなことあるわけない」と思っていたのですが、実際自分にそれが起きたこと。恨んでいた両親が今は愛(いと)おしく、感謝以外ありません。ルミさんのことも大っ嫌いだったけれど、今は私を導いてくれたこと、叱ってくれたこと、受け入れてくれたこと、そして信じてくれていることにも感謝しかありません。

変わりたいなんて思ったことなどなかった私が変わりたいと思い、「こんな私でも変わるんだ!」と知ったこと。太っていたっていいじゃないか、吐くよりいい、と思えるようになったこと。こんな私に正面から向き合ってくれる人がいるんだと言うこと…。

仲間の有り難さ。そして両親の深い愛情。両親は私がここに繋がってから必ず月に一回手紙をくれます。最初その手紙が嫌だった。でも今は待ち遠しくなっています。家族会に繋がってくれている両親に感謝しかありません。私のせいで人生めちゃくちゃのはずなのに、笑ってくれる両親に「ごめんなさい」でいっぱいです。

今は来た頃よりかなり太った私を見て、母が「めいはもともと太っていたんだもの。今が自然体よ」と優しく言ってくれました。母の愛を感じました。両親がここに繋いでくれていなかったら…と考えると、ぞっとします。

ルミさんがよく言っていた、「ここには選ばれた人しかこない」ことの意味も分かり、選ばれたことに感謝しています。こんな所(?)に来たくなかった私が、「ここにいたい!」と思うようになっていきます。息子とも2年半空いた後、また面会ができるようになりました。年に2～3回程度ですが、毎回息子の成長を目で見ることが出来る幸せを感じています。今までの歪んでいた私の感情ではなく、ここで教えてもらった正しい愛で、これからしっかり埋め合わせをしていきたいと思っています。

(次号につづく)

受刑者からの手紙

手紙を書き読書する今の生活が楽しくて仕方がない

厳しい冬を乗り越え、待ちに待った春日和の季節になりました。シゲさん、栗原センター長、そして入寮者の皆様、コロナ禍の中でも元気にしておられますか。お忙しい中、毎月のパンフレット(潮騒通信)を送って下さり、ありがとうございます。

ここでの受刑生活も残り1年4カ月余り、なんとか“卒業”が見えてきましたので、今から色々考えるために一人部屋に行くことにしました。その時は、手紙を出しますので、シゲさんも返事を下さい。私にとっては唯一の楽しみなのです。だから、シゲさんも、僕の手紙を楽しみに待っていてください。私は出所したら、まずシゲさんにお電話をする事とします。

振り返ると、既に私は人生の半分を生きてまいりました。覚醒剤やシンナーをやったり、酒を飲んだりして、それらに依存するマイナス生活に浸りきって、大事な自分自身の人生を棒に振ってきました。そのツケが回り、身体に後遺症が残っており、たまに独り言を口走る癖が出てきてしまいました。シゲさん、その時はどのようにしていけばよろしいのか、心底、自分なりに考えればよいのでしょうか、何かアドバイスを頂けるとありがたいです。

ところで最近の私はこうして手紙を書くことが、とても楽しくて楽しくて仕方ありません。また本を読むことが嬉しくてたまりません。今読んでいる本は、「天地人」という本です。また、今の私は、一日一日が楽しくてたまりません。出所後のビジョンが見えてきたからです。そちらにお世話になるとして、私にとって潮騒JTCという場所は未知の世界であり、どのようにして生活をしていけばいいのか、自分の好きなようにしていてもよいのでしょうか。夢が膨らむばかりです。

それで思い出したのですが、父親が平成5年の1月に亡くなって、この世界から消えてしまった時にはこんな私でも涙があふれ出てきて、自分自身が荒れに荒れていました。その時に、恩師の人に電話をかけて、これから先どのようにして生きていったらいいのか? と伺ったことがありました。そうすることによって人生が変わるだろうと思えたからです…。

甘えるついでにシゲさん、一つ私の頼みを聞いて下さい。それは栗原豊センター長に、私も本当にそちらへ入所することが出来るのかどうかを、お伺いしてほしいのです。どうか宜しくお願いします。シゲさんは神野寮(※潮騒JTCのナイトケア施設の一つ)の責任者を任されているようですが、そちらに入所が決まったら、まず何をしたらいいのか? などと一昼夜考えたりしました。ついシゲさんを悩ますような事ばかりを書いてすみません。

話はそれますが、東京からそちらへはどのようにして行けばよいのか、私には分からず困っています。シゲさん、私は出所したら帰るところもないし、生活ができなくて大変困っていますので、どうかお力を貸して下さい。シゲさんとは友であり、仲間ですよ。これからは気兼ねなく手紙に書いて出しますので、どうか、怒らずに、シゲさんも気兼ねなく本音をお書きください。

最後に、社会ではまだまだ新型コロナウイルス感染の蔓延が解消されていませんが、シゲさんも皆様もお身体にはお気をつけ下さい。自分の身は自分でしか守れませんからね。駄文を連ねてしまいました。とても読みづらいとは思いますが、どうかお許しください。まともませんが、今回はこれにて失礼します。

(東京都 Iさん)

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

コロナ禍が収束しても私の“薬物禍”には終わりはない

やっと春らしさを感じられる暖かい日が続くようになってきた今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。私はここでの刑務所生活にもやっと慣れ、新入訓練工場の衛生係として、日々落ち着いた生活を心がけています。先日は「潮騒通信 どっこい生きてます」を送っていただきありがとうございました。毎回楽しく読ませていただいています。コロナ禍ということもあり、潮騒も独自の日常と生活スタイルを模索しているとのことで、苦労がうかがえました。持ち前のバイタリティーでこの厳しいコロナ禍にも負けず頑張っていてほしいと心から願っています。これで無事にコロナ禍が終わっても私の死ぬまでの課題である“薬物禍”が続いていますので、どう克服して戦っていくかしっかり考えていきたいと思っています。

正直、刑務所で懲役を務めただけで薬物をやめられるかといったら、無理です。いたるところで薬物の会話がされているし、みんながみんな、やめようと思っているわけではないので仕方がないのは分かりますが、本当にやめたいと思っている私にとっては最悪です。確かに法を犯したからには罪を償うのは仕方ありませんが、本当に自分に必要なものは罰ではなく、治療なのだ実感しています。

まだ潮騒のプログラムとミーティングがどういうものかは想像できませんが、薬物を止め続けていける助けになる事だけは全く疑っておりません。まだまだ残刑2年近く残っておりますが、潮騒通信を読んで、勇気もらって頑張りたいと思います。

(福島県 Mさん)

“幸せおじさん”の職員に淡い期待を寄せてしまう

シゲさん、お元気ですか。毎月、潮騒通信の差し入れをありがとうございます。1月号には私の獄中からの手紙が載っていました。過去にも潮騒通信に載っていたことを思い出しました。潮騒通信に載ると何か、嬉しく思います。

3月中に面接がなければ、満期になると心のどこかで感じっております。同囚は「もうすぐで出られるのだから仮釈でなくとも…」と言いますが、誰も1カ月でも早く出たいと思う気持ちはあります。いつまでも刑務所の中でくすぶっていたくはありません。一日でも早く、潮騒の先輩になられる方達と回復に向けて頑張りたい思いでいます。満期が近づくにつれて、作業中にファイルを持った職員が来ると、「もし

かしたら面接で俺が呼ばれるのか…」と思ってしまいます。その職員を、同囚たちは“幸せおじさん”と言っています。とにかく潮騒が引受人と決まっていますので、「今回こそは仮釈で出所を果たすことが…」と心のどこかで思っています。私もあと3カ月足らず、今日の前にあることを諦めずに、誰もができることを誰もができないくらい頑張っていきます。私の生きる場所は社会です。娑婆(しゃば)でも強く生きていきます。

やっとなんて言うべきか、コロナのワクチンも日本に出回ってきたようです。シゲさんも皆様も健康には十分に気を付けて下さい。

(東京都 Mさん)

しおさい俳壇

3のお題

雛祭り

選者 桐本石見

特選句

雛祭り
嫁ぐ最後の娘なり

シゲ

雛祭は平安時代に貴族の子女の遊びや穢(けが)れを形代(かたしろ)として川などに流したのが始まりで、江戸時代今の様に煌(きら)びやかになった。何人かの娘さんがおられたのか、その最後の娘も嫁ぐ親として嬉しさ寂しさの交じる雛祭でもある。父親として切々の句。

特選句

雛飾る
嫁に行く日をいま願ふ

アツチャン

現代は結婚観も多様化した、本来は大自然の中の営みで億年も続くもの。人間故に特別な思いはあるが嫁ぐ願いも切実で愛おしい。雛飾りの様に多くの調度品と共に嫁ぐのも女性の夢の句であります。

特選句

雛人形
私に似てる双子かな

ミニ

雛人形が今の様になったのは江戸時代と言われ庶民にも広がる。室町、寛永、元禄、享保雛や京雛など時代や製作地名を冠するのがあり夫々に美しい。その雛に似ると言うのも哀憐の句で懂れでもある、どの雛に似ているのだろうか。

秀逸句

今月の秀逸句

孫はやも
嫁ぎて三月雛祭り

アベ

雛祭を迎えると三月前に嫁いだ孫娘を思う、どれかの雛様に似たお孫さんかも。原句は妹さんだが、句の作者の年齢かして孫さんが適切と思います。老いた身には少し寂しく思う句。

変り雛
今年は誰に輝くか

オノ

変り雛はこの一年近くにテレビなどで話題の政治、芸能、スポーツ選手などを言い羽子板などにも作られる。また髪形や服装も現代を思うのを着る。面白い句。

お雛様
真壁の里の風物詩

ヒロ

真壁町の雛祭は平成十五年町の復興の一つに始まり今では百六十軒が参加、十万人もの賑わいと言う。また旧い街並や近くに城址も発掘され真壁氏の昔を偲べる。「真壁町戸口戸口の雛明り」が私にあり懐かしい。

絵本持ち
膝に来る児や雛祭り

コン

絵本にも雛祭があるのか、まだ字も読めないで親の膝に来て説明をねだる。幼子は可愛い女の子であろう、微笑ましい情景の句です。

いつの日か
お内裏様になりたいね

とら丸

内裏は天皇の日常の生活の間の事でもあるが、男雛女雛の事にも言い、親王、内裏雛でもある。それになりたいと言うのは俳諧の夢の面白い句。

幼な児に
恋のめばえを夫婦雛

ユタカ

雛飾りには天皇、皇后様の婚儀に似た親王雛、内裏雛を上段に飾るが女の児には自分が嫁ぐ日の夢でもあり誰を好きになるかのロマンでもある。微笑ましい句。

佳作

思い出の家族の年日* 雛の町	しま	白酒のつまみにあられ雛祭	スマイル
亡き母の笑顔を思ふ桜餅	ひーちゃん	思い出を娘に託す雛人形	ちあき
雛祭り晴れの気配の湖の空	マギー	雛祭り子の日の頃の父思ふ	カジ
望郷は町の飾りの雛祭	アベ	嬉々として飾る雛壇華やぎぬ	えび
懐かしや子の日に還る雛祭	のん	人形と雛を祭りて美しき	ブッチ
雛あられ食べて懐かし雛祭	みつちゃん	雛祭みんなで食べるあられかな	なん
震災に今は亡き女人(ひと)流し雛	?	雛祭娘の成長見守りぬ	れいこ
名にし負ふ水府藩主の雛祭	とら丸	白酒に心はなやぐ雛祭	チャコ
懐かしや母子の絆雛祭	ツッチー	雛祭娘孫にも受け継ぎぬ	みく
雛まつり雛の如くに子等揃ふ	アンコウタロウ	幼日は人形よりも雛あられ	めい
雛祭二人並びて祝ふかな	あきら	雛あられ食べて祝の一日かな	ニモ
雛人形子供のためにオルゴール	いるか	川面に曳き舟の音雛祭	ゆーみん
雛祭娘の年日*懐かしむ	まこ	美しや世界に誇る雛祭	タイチ
雛祭妹のほうばるあられかな	ショッキ	注連縄(しめなわ)の杉の花粉や香取宮	ユタカ

* 年日(としび)、生まれた年の干支と同じ干支の日のこと

俳句へのいざない

第十四回 句集

この度栗原センター長のご尽力により、合同句集「潮騒」が刊行されました、心から敬意とお祝いを申し上げます。

俳句は十七文字の中に季語を入れれば誰にでも詠めますが、普段はノートなどに記されそのままになり易い。

例えば俳聖と言われる松尾芭蕉には、奥の細道、鹿島紀行、猿蓑などがあり後世の人もその旅吟や旅の思いを知ることが出来ます。

句集潮騒はそれらとは比べられませんが、潮騒ジョブや関係施設へ一石と事績*を後へ残せた事は、

確かです。また少し大袈裟に言えば、人と生れて凡人の百歳を生きるにしても何か味わいの一言を残したいものです。その事からしても句集に一句を残すのは趣がありますし、戦国時代の武将も生死の戦の中で辞世の歌を詠んでいます。

俳句、短形詩を小学生から大人まで詠めるのは世界でも日本だけで文芸の国ともロマンの国とも言えます、故に和歌万葉集、俳句と続く伝統を凡人は凡人なりに後世に伝え、個人も生きた証の句を残したいものです。

* 事績＝成し遂げた事業の業績

3月のバースデー



ヒコ

今日一日で
がんばってます



イチフク

早いもので
年金もらえる
年です



ケンジ

こんな
おいらで
悪いのか〜



イチロー

長生き
したいねえ〜



コジマ

...



ケン

80歳まで
生きたい



コタロウ

68歳、
ありがとう
ございます



スオウ

三疊三浴
(さんきん
さんよく)



コウチャン

コメント…
ないなあ〜



リュウマ

ユタカ
長生きしろよ



マル

がんばります



アーチャン

デイケア一歩!



ゴロウ

余命四年にて
散下す



タダ

1年半飲んで
ません!
これからも
飲みません!



オッチャン

54年間色々
ありましたが、
ここに繋がれて
がんばります

みんな楽しみ
食事会再開!



コロナ禍の影響で自粛していた月に一度の食事会が、地元の「すたみな太郎」で再開されました。デイケアに通っている仲間のうち希望者の参加でしたが、焼肉、寿司、唐揚げ、たこ焼き、アイスクリーム…、好きなものを好きなだけ食べました。このところの自粛生活でたまったストレスを、食べることで解消するかのような盛り上がりでした。でも残念なことに馴染みの神栖店は、4月から休業とのこと。来月からは別な店舗で実施予定ですが、しばらくは仲間たちの胃袋を満たしてくれるお店探しに苦労しそう…。

2月の行事

- 2月3日 鹿島神宮豆まき(中止)
水戸保護観察所スマープ(中止)
- 2月18日 潮騒俳句会
- 2月20日 東京第19回くらしフェスタ立川
センター長 講演(中止)

3月の行事予定

- 3月3日 水戸保護観察所スマープ(予定)
- 3月11日 潮騒俳句会(予定)
- 3月20日 条件反射制御法研修会(予定)

感染予防対策を徹底して行います。
状況に応じて中止や延期になる場合があります。

献金・献品を頂いた方 (3月15日現在)

- ・ 柴田 宜政 様
- ・ 小島 了輔 様
- ・ 白砂 文雄 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

以前に信頼をおく先輩から「君の書くものはどうも堅苦しくていけない。もっと柔らかくできないのかね。こっちが疲れちゃうんだよ。もっと遊びを取り入れなきゃだめだよ。そうすれば文章にも幅が出てくるんじゃないの?」。自分でもそのことは気にしていたけれど、いろんな癖と同じでいったん身に付いたものはそう簡単には直らない。自分の書くものが硬筆なタッチになったのは、若い頃に入れ込んだ思想家や作家の(悪)影響かもしれないし、僕の人生そのものに遊びがなかったせいなのかもしれない。あるいは余裕のない人生を突っ走ってきたからか? 70歳も生きてきた自分の年齢を理由にして、「今さら変わらないよ」と開き直りたい心情もあるが、「人生いつからでもやり直せる」をモットーに回復のプログラムに励む仲間たちを横目にすると、「これではいけない」と反省することしきり… ▼半面、我が内なる声は「そう悲観するなよ、行政文書や裁判所の判決文に比べたら、ずいぶんマシな方だぜ」と自分を慰める。確かに世に出回るそうした文書は「なぜこんなにも分かりにくく書くのだろう」と底意地の悪さを感じてしまう。まあ、必要があつてそうなのだろうし、歴史的な背景もあるのだろう。では、潮騒通信のような福祉施設のニュースレターの役割や表現の在り方はどうだろうか。施設ごとにいろんな意味合いがあるのだろうが、基本は自分たちの活動や様子を広く世間に知ってもらいたい、という素朴な思いが共通項だろう。そのためにも、できるだけ分かりやすい文章で表現されていることが望ましいというのは、言をまたない。独り善がりではダメなのだ。では、潮騒通信はどうあるべきか? ▼潮騒JTCは、当事者による当事者のための活動が「売り」なので、できるだけ仲間の声を反省させたいというのが編集担当の本音なのだが…。その意味で、今回も当事者たちが原稿を書いたことでバラエティーに富む構成となり、自己満足を得ている(笑)。編集段階では最低限「てにおは」だけは手直しをさせてもらい、限られた掲載スペースの関係から削除せざるを得ない原稿もある。できるだけ本人たちの原文をそのまま掲載することにはしているが、僕の悪い癖でつい手を入れたいくなる。そのたびに「越権行為だぞ!」と自分に言い聞かせることにしている。そんな中で毎回、回復物語を綴ってくれている「めい」さんの、柔らかくしなやかな文章は、僕にとっては先生となる手本の原稿だ。彼女は書くことで自分を見つめ、回復につなげている。言葉によって助けられている一人かもしれない。言葉って捨てたもんじゃない。(勝)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年3月号

Contents

P② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

言葉だけの希望より私たちの体験を届けたい

P③ コロナ禍における施設運営の課題と展望 第3回「サポーター制度」導入で職員登用の道を推進

P④ 潮騒の学び P5 ブーちゃん(卒業) / P6 一郎(進級) / P7 ヒロ(進級)

P⑧ 「るみの家」めいの回復(途上)物語 P⑩ 受刑者からの手紙

P⑫ しおさい俳壇 3月のお題「雛祭り」 P⑭ 3月のバースデー P⑮ 行事予定 / ごまめの歯ざしり / 献金・献品



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター
理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10
事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5
潮騒アディクションビレッジ会館 4 階
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/



就労支援に力を入れる潮騒ジョブトレーニングセンターでは、このほど6人の仲間が介護職員初任者研修を修了しました。社会復帰や福祉施設職員に求められるサービス管理責任者の資格を得るのが目的です。コロナ禍で延期されましたが、昨年11月から週2回、計14回受講しました。着替えや入浴介助などを受講者同士で模擬的に実習しましたが、実際の現場ではより経験が求められます。施設側から、同講習のために日々の業務を1日休ませてもらう配慮があり、安心して受けられました。また、食事介護の時には、「おらげのかまど」のお弁当が提供されたほか、他の受講者の昼ごはんのお弁当にも利用されました。今後、介護研修の主催関係者からエイサー慰問の依頼もありそうです。